Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

2025 年 5 月 14 日

配信先: 京都大学記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、
文部科学省記者クラブ、科学記者会、環境省記者クラブ、
環境記者会、農政クラブ、農林記者会

総合地球環境学研究所　メディア懇談会開催のお知らせ

平素より、総合地球環境学研究所（地球研）の研究活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。地球研では、報道関係者の皆さまを対象に、最新の研究活動をご紹介するメディア懇談会を開催しております。今回は、現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式で実施いたします。現地参加の方には、発表者、研究者らとの懇談の時間もございますので、ぜひご参加ください。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

記

2025 年度第 1 回　地球研メディア懇談会

日　　時：　2025 年 5 月 22 日（木）　15：30～17：00 (オンラインは 16:30 まで)

実施方法：　総合地球環境学研究所（京都市北区上賀茂本山 457-4）講演室　および　オンライン
※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

申込方法：　**【地球研講演室で参加】**
所属、お名前をメールにてお知らせください。
件名：地球研メディア懇談会
地球研広報室： kikaku@chikyu.ac.jp
【オンライン（zoom）で参加】
下記 URL または右の QR コードよりご登録ください。
https://us02web.zoom.us/meeting/register/JZsZhI6hQv-_DBe8uTELOg
ミーティング ID: 851 5833 3348　パスコード: 150937
※事前申込制ですが、当日申し込みも可能です。

【プログラム】

15：30　開会・あいさつ（地球研の主なトピックス紹介）　岡田 小枝子 室長

15：40　**安成 哲三 センター長（京都気候変動適応センター）**より話題提供
『京都市における熱中症問題の今後の課題
（気象学会機関誌『天気』論文発表を踏まえて)』

16：00　質疑応答

16：10　**安元 純 プロジェクトリーダー （LINKAGE プロジェクト）**より話題提供
『サンゴの白化現象とリンの関係に迫る
ー目に見えない地下水の流れを可視化するツールを開発―』

16：25　質疑応答　※オンライン配信はここまで

16：30　歓談

17：00　終了

【発表概要】

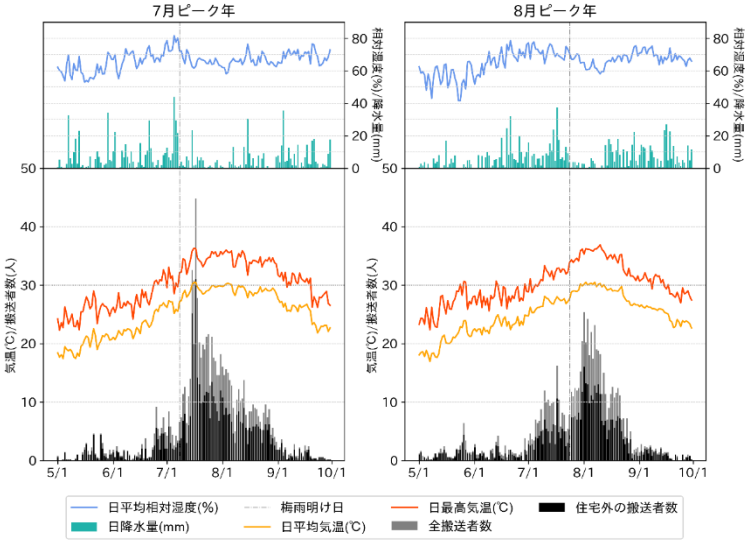
■　『京都市における熱中症問題の今後の課題（気象学会機関誌『天気』論文発表を踏まえて)』

京都気候変動適応センター※1のミッションは、京都という長い文化・歴史をもった地域から社会と文化のあり方を考え、気候変動適応問題を探っていくことです。気候変動そのものを抑える緩和に加えて、既に起きている変化に備える「適応」という視点で「京都ならではの対策」の検討を行っています。今回は、気象学会機関誌『天気』に発表した内容を踏まえて、事業の一環として行った、京都府市地域での夏季の熱中症搬送者数の時空間的変動が、年々の気候変動や搬送者の属性、社会・経済・文化的な特性が異なる地域性などとどのように関係しているかについての調査を報告するとともに、温暖化が急速に進行している中での今後の予測可能性についてお話します。

（参考情報：2025/5/7 プレスリリースより）

京都市の熱中症搬送者数は梅雨明け日が祇園祭の前か後かで大きく変わる！？

京都市における過去 13 年間（2011－2023）の暖候期（5－9 月）の熱中症搬送者数の日々の変動について、気象要素変動と観光客数の変動との関連性の分析を行いました。熱中症搬送者数の季節推移傾向は、大部分の年で 7 月中旬と 8 月初めにピークがあり、7 月のピークは梅雨明け直後に開催される祇園祭（特に 7 月 17 日）前後に、8 月のピークは気温の季節的な極大期に対応しています（右図）。盛夏期の熱中症搬送者数は、日平均気温 28°C以上で 5 人/日以上、30°C以上で 10 人/日以上、31°C以上では 20 人/日以上と急激に増加します。特に 7 月のピークは、梅雨明け直後の急激な気温上昇により暑熱順化が不十分なまま祇園祭に訪れる観光客数が、熱中症搬送者数に大きく寄与していることが定量的に確認されました。



熱中症搬送者数の季節推移と西日本の梅雨明け日の平均を示したグラフ

※1 **京都気候変動適応センター**（総合地球環境学研究所、京都府、京都市の三者合同で運営）
https://kccac.jp/

安成 哲三 （やすなり てつぞう） プロフィール

総合地球環境学研究所前所長・顧問・名誉教授、名古屋大学名誉教授、筑波大学名誉教授
京都大学理学部卒業（理学博士）　専門は気象学・気候学、地球環境学
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第 1 次、第 2 次報告書 contributer、
第 5 次、第 6 次報告書 review editor

■ 『サンゴの白化現象とリンの関係に迫る。目に見えない地下水の流れを可視化するツールを開発』

LINKAGE プロジェクト※2では、琉球弧をはじめとする西太平洋の熱帯・亜熱帯域に位置するサンゴ礁島嶼系を対象に、陸と海をつなぐ水循環を軸とした生態・文化・資源のつながりを明らかにしています。具体的には、暮らしの中で育まれてきた生物や文化の多様性、多様な自然資源をめぐるガバナンスの規範・制度・組織の重層的な変遷を解明し、それらの成果を可視化することで、マルチリソースの順応的ガバナンスの強化をめざしています。

2024 年には、石垣島と西表島の間に広がる国内最大のサンゴ礁「石西礁湖」において、サンゴ群体の 84%に白化現象が確認されました。白化の主因は海水温の上昇とされていますが、私たちはこの白化現象に対し、海底底質に蓄積されたリン濃度と、サンゴの被度・白化度との関係を初めて明らかにしました。この研究成果は国際ジャーナルに掲載され、白化要因にリンが関与する可能性を示す新たな知見として注目されています。

さらに、研究成果を地域と共有し、対話を促す手法として、プロジェクション・マッピングを活用しています。今回のメディア懇談会会場では、沖縄本島南部および与論島における研究成果をもとに、海にリンを供給する目に見えない地下水の流れを地形模型に投影し、可視化ツール（P＋MM）として展示しています。科学的知見を地域社会と共有し、課題解決につなげる取り組みの一環です。

今回は、今年度新しくプロジェクトリーダーに着任した安元 純 准教授からお話します。

与論島のP＋MM（水循環シミュレーション）

※2 **LINKAGE プロジェクト**（陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンス：サンゴ礁島嶼系での展開）
https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/8/

安元 純 （やすもと じゅん） プロフィール

専門は農業工学・水文学。琉球列島やインドネシア南東スラウェシ州ワカトビ県、フィジーなどをフィールドとして、地下水の塩水化や海底地下水湧出などの水文学的研究から、水循環を介した陸と海の相互作用の解明や気候変動や社会構造の変化が陸と海に跨がって存在する自然資源（例：水資源・水産資源など）に与える影響評価など多様なテーマに取り組んでいる。この 4 月から LINKAGE プロジェクトのプロジェクトリーダーに就任。

【参加申し込み及び問合せ先】
総合地球環境学研究所（地球研） 広報室 竹腰、岡田
Email: kikaku@chikyu.ac.jp
Tel: 075-707-2274、2450 / 070-2179-2130